

中医学

中国の伝統医学は中医学、または中国医学と呼ばれます。何千年も前から中国各地の人々が活用していた知識が体系化され、長い間受け継がれてきたものです。

概要

西洋医学が、人体を種々の器官や組織によって構成されていると考え、治療は外部からの力で悪くなった部分に局部的に行うのに対して、中医学では「人体は一つのまとまった有機体で、それぞれの臓器や器官で切り離せないもの」と考えています。同時に、「人も自然の一部で、人の体は自然環境と密接に繋がっている」と考え、この2つの考え方を合わせて『整体観』と呼びます。これは中医学の中心となる考え方で、人は体の中のバ

中医学

ランスと、体と自然（生活環境）とのバランスを、共に整えることが重要だというものです。

また、中医学の特色は、「未病」と呼ばれる、病気として表面に現れる前の症状を重視し、予防医学に力を入れていることです。医師は、患者の脈や舌、声の張りなどから、体全体の状態を判断し、天然の生薬を調合したり、鍼灸やマッサージなど、それぞれの患者の症状にあった治療法を見つけ出します。

起源

中医学の起源は、数千年も前に遡ります。人々は薬草で病気を癒し、シャーマン的な存在である神官が病を呪術によって治療していましたが、やがて医学と神事が少しずつ分離していきました。

中国最古の医学書は『黄帝内経（こうていだいけい）』と呼ばれ、戦国時代（紀元前403年～紀元前221年）から前漢（紀元前202年～8年）の時代に、当時の自然科学の知識を駆使して編纂されたと言われています。その中には、「東の地域は海に近いので、塩や魚を食べることが多く、血の流れが盛んになり、鬱血症や腫れ物が多い。そのため、

中医学

石器で患部を切開して血や膿を出す外科的な治療法が発達した」、「西の地方は山岳で、寒冷地のため、人々は厚着をして家の中にもこもる生活をしていた。そのため、脂肪太りや内臓の病気が多く、煎じ薬を用いる『中薬』の治療法が発達した」、「北の地域は高原で寒さが厳しく、人々は遊牧をしながら乳製品を主食としていた。そのため、腹の張る病気が多く、『灸』の治療法が発達した」という記述があり、広大な中国の異なった天候や食生活から生まれた知恵と知識が、中医学として体系化されたことが分かります。